

## 県政運営評価戦略会議からの「基本目標ごとの意見・提言」への対応方針等

番号	基本目標	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
1	1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	<p>徳島阿波おどり空港の国際ターミナル機能の活用を具体的にぜひ進めてもらいたい。</p> <p>また、徳島の観光の魅力をもっと引き上げる施策を進めつつ、国際ターミナル機能を活用して、海外からの観光客を増やすという両面の施策にしっかり取り組んで欲しい。</p>	<p>徳島阿波おどり空港の機能強化の効果を最大限に発揮するため、国際線の就航に向け積極的なエアポートセールスに取り組んでいる。その結果、香港航空より国際定期便の就航意向が示された。また、香港からの連続インバウンドチャーター便が就航するとともに、台湾・徳島間の双方向チャーター便も就航する。</p> <p>定期便の一日も早い就航を目指すとともに、更なるチャーター便など、国際線の一層の誘致に全力で取り組んで参りたい。</p> <p>また、徳島阿波おどり空港への国際線就航を、本県への外国人観光客の増加にしっかりとつなげるため、就航した国・地域における旅行博出展、広告展開など重点的な観光プロモーションを展開して参りたい。</p>	商工 県土
2	1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	<p>都市圏に住んでいる高齢者は、既に自宅を購入していることなどから、地方への移住希望があっても、なかなか移住できない方もいるので、週単位、月単位で地方に移住するような移住方法の提案や、空き家の活用と併せた取組の提案を行ってもよいのではないか。</p>	<p>本県においては、市町村や福祉事業者、大学などと連携し、本県出身者や本県で勤務された方など「本県ゆかりの高齢者」の移住を促進し、徳島への新しい人の流れを創出する「徳島型CCRC・生涯活躍のまち」の形成を推進している。</p> <p>「生涯活躍のまち」構想を推進している市町村の1つである三好市では、同市内での暮らしを具体的にイメージしてもらうため、お試し暮らし住宅を整備し、お試し暮らし住宅での滞在中、希望者に市内の空き家の紹介や先輩移住者との交流などを行う取組を行っている。</p> <p>また、空き家の利活用の促進については、徳島駅前や東京有楽町の移住相談窓口と「『とくしま回帰』住宅対策総合支援センター」を核として、移住希望者に対して、市町村の空き家バンク等と連携し、空き家情報や活用事例の提供を行うとともに、リフォームやリノベーション支援などに取り組んできたところ。さらに、支援センター独自の空き家バンク構築など、空き家情報提供体制の充実を図って参りたい。</p> <p>さらに、住宅セーフティネット法の改正により、高齢者を含む住宅確保要配慮者の入居を拒まない空き家・空き室の賃貸物件を登録する制度も創設されたところであり、高齢者に対する住宅供給が促進されるよう、県としても取り組みを進めて参りたい。</p> <p>今後とも、「徳島型CCRC・生涯活躍のまち」の形成に向けた取組みを進めるとともに、空き家等を活用したお試し滞在や2地域居住などを提案し、大都市圏に住む高齢者をはじめとした多世代の移住交流の促進に取り組んで参りたい。</p>	政策 保健 県土

番号	基本目標	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
3	2「経済・好循環とくしま」の実現	<p>東京オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムにジャパンプルーが採用され、急速に徳島の藍を国内外に発信しようと、色々な取り組みが出てきている。</p> <p>こうした状況を踏まえ、「行動計画」のブランド化関連戦略において、徳島の藍や、藍関連産業のブランド化に関する施策にしっかりと取り組んで欲しい。</p>	<p>藍製品を「徳島ならではの優れた県産品」である「とくしま特選ブランド」へ進化させていくため、「藍製品の事業者支援」や、「6次化商品開発支援」を推進するとともに、県内の藍関係者などからなる「タスクフォース」を新設し、藍の「生産振興」から「藍染製品の開発」、「ブランド化」さらには「販売戦略」に至るまで、総合的な検討を進めて参りたい。</p> <p>また、藍色を支える天然藍染料「阿波藍(すくも)」についても、歴史的背景など高い付加価値を含めた魅力を国内外に伝える取り組みを進めて参りたい。</p>	県民 商工 農林
4	2「経済・好循環とくしま」の実現	<p>「阿波ふうど」という言葉がとても良く、ロゴマークも素晴らしい。これを阿波の食(フード)だけではなく、風と土で「阿波風土」として、観光分野で、さらには文化分野でも全面的に活用して、徳島県を売り込んでいくことができれば、素晴らしい取り組みになるのではないかと。</p>	<p>「阿波ふうど」の愛称、ロゴマークについては、平成28年1月に共通コンセプト「vs東京」を踏まえ、全国に向け「徳島の食」の魅力や価値を伝えるブランドネームとして決定したものであり、平成28年5月に特許庁に「商標」を登録している。</p> <p>また、平成29年7月に「『阿波ふうど』商標登録ロゴマーク使用管理要領」を制定し、徳島県産農林水産物やその加工品、歴史的・文化的に徳島県と関わりが深い加工食品を対象とし、農林水産業団体や県内の食品加工業者などにも広く利用いただいているところである。</p> <p>今後は、「食」との関わりの深い観光・文化振興面においても、「阿波ふうど」を活用し、徳島の魅力発信を全国に向け、展開して参りたい。</p>	県民 商工 農林
5	3「安全安心・強靱とくしま」の実現	<p>消費者庁の徳島誘致は、この3年間の成果によって決まることから、消費者庁誘致の関連施策は、特に他の都道府県との比較を意識して、「徳島は、はるかに進んでいる」と言われる目標を掲げて、しっかりと取り組んで欲しい。</p>	<p>本年7月に消費者庁等の「消費者行政新未来創造オフィス」が開設され、徳島を実証フィールドとした「新未来創造プロジェクト」が現在進められている。</p> <p>本県は、このプロジェクトが成果を上げるよう、消費者庁等を全力で支援しているところであり、その成果が全国モデルとして発信されることで、消費者庁等の全面移転に向けた機運を醸成させていきたい。</p>	危機
6	3「安全安心・強靱とくしま」の実現	<p>交通渋滞対策として、車の量を減らすことに着目すると、公共交通の利用に繋がっていく。この点を考えると、「都市部における渋滞対策の推進」施策と「公共交通の維持・発展」施策をいかにリンクさせるのかとの観点で、行動計画の中でしっかりと施策を作ってもらいたい。</p>	<p>県では、国・県・市町村、JRやバス事業者で構成する「徳島県・生活交通協議会・ワーキング部会」において、「公共交通の維持・発展」を図るため、『「運行の効率化」や乗り継ぎ利便性の向上』・『「まちづくり」と連携した持続可能な交通体系の構築』などの観点から、鉄道や路線バスの「最適化」について議論をしているところであり、引き続きしっかりと検討して参りたい。</p>	県土

番号	基本目標	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
7	4「環境首都・新次元とくしま」の実現	中山間地域のこれからの持続を考えた場合、「エネルギーの地産地消」の推進や、「自立分散型エネルギー」の推進といった施策自体が、スマート社会の構築に繋がる施策になることから、こうした施策とスマート社会の取り組みをうまくリンクさせていくべきではないか。	スマート社会の構築には、エネルギーの効果的な利用や、環境負荷の少ない自然エネルギーの積極的な活用などが重要であり、本県では、スマート社会構築のためのツールであるネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)やネット・ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)における蓄電池システム導入に対する支援、小水力や小型風力の自然エネルギー設備に係る調査費用やその導入の支援、自然エネルギーを活用した防災設備の導入などを実施しているところ。特に、中山間地域においては、人口減少や高齢化、防災・減災の観点からも、今後も、エネルギーの地産地消や自立分散型エネルギーの推進はもとより、様々なツールの積極的な活用によるスマート社会の構築に向けた取り組みを推進して参りたい。	県民
8	4「環境首都・新次元とくしま」の実現	自然の再生、森づくりに繋がる植樹活動といったプロジェクトを進める場合には、水産関係者にも声掛けしていただけると、より広がりのある取り組みになるのではないかと。	森づくりに繋がる植樹活動については、「とくしま協働の森づくり事業」等を通じ、企業や団体と連携・協働しながら進めているところであり、水産関係者である「徳島県漁業協同組合連合会」や「漁業協同組合」からも事業推進のためのご寄附をいただくなど、協力を得ている。 漁場環境の保全には、栄養塩類の供給や濁水緩和等の効果を高める森作りが有効であることから、今後とも水産関係者に事業趣旨の説明や植樹活動への参加要請を行うなど、更なる連携体制の強化に努めて参りたい。	農林
9	5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	「みんなが元気で輝く」ためには、施策の根本に県民の誰1人とも孤立させないとの気概を持って、きめ細やかに各種の対策を講じていくことが肝要であり、計画目標に対し、現状では実績が下回っている施策については、こうした観点で事業手法などに改善の余地がないか、しっかり点検してもらいたい。	誰もが社会の担い手として活躍するとともに、地域の絆を深め、見守り支え合う地域づくりや、住み慣れた地域でいきいきと健康的な生活を送るための各種取り組みを、ご提言の観点で、常に点検を行い、あらゆる関係機関等と連携しながら、「みんなが元気・輝きとくしま」の実現を目指して参りたい。	県民 保健
10	5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	今後さらに超高齢社会が進行していく中で、誰もが元気な地域づくりに繋げていくためには、後期高齢者でも頑張っておられる方々に、何らかの形でスポットを当てる取組も必要ではないかと。	本県では、自ら積極的にボランティア活動に参加されている60歳以上の方や在宅介護などで功績のある高齢者福祉功労者等を対象とした知事表彰制度や、高齢者がひとり暮らしの高齢者を見守る友愛訪問活動において功績のある方を対象とした知事表彰制度を設け、例年9月上旬頃に開催する「敬老県民のつどい」において表彰を実施している。今年度は合計99名(うち75歳以上の方は65名)の方に表彰を行った。 県としては、引き続き、頑張っておられる高齢者の方にスポットが当たるよう、このような取組を実施して参りたい。	保健

番号	基本目標	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
11	6「まなび・成長とくしま」の実現	グローバル人材の育成に向け、興味を持った児童生徒が、各自の習熟段階に応じてステップアップしていける「徳島ならではのシステム」の構築を検討して欲しい。	現在「Tokushima英語村プロジェクト・ステップアップ事業」として、小・中・高校を通じて「世界を体感する場」の提供として、「徳島ならではの」取組みを行っている。小学校5、6年生に対しては、県内3コースで「ALTとともに徳島を学ぶデイキャンプ事業」を、中学生に対しては県内3カ所で1泊2日の英語を使った宿泊体験活動「イングリッシュキャンプ」を、高校生に対しては6泊7日の海外大学生との疑似国内留学体験「徳島サマースクール」を実施している。さらに徳島の魅力を英語で世界に発信する高校生「ジュニア観光ガイド」養成講座も実施しており、世界を舞台に活躍できるグローバル人材の育成を目指している。 今後はさらに、「英語でのコミュニケーション」から「英語をツールとした活動」へと内容を充実させていく方針である。	教育
12	6「まなび・成長とくしま」の実現	国際的かつローカル(グローバル)な人材の育成が重要であり、子ども達が、徳島に関する色々な知識や情報をもっと学べる小学校からの教育が必要ではないか。 また、こうしたグローバルな人材育成の手法として、いわゆるアクティブシニアと言われる皆さんに御協力をいただき、その知見を活かすことも有効ではないか。	国の「小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導等について」(平成29年7月7日通知)を踏まえ、平成29年度作成・配布の「ふるさと教材」デジタルコンテンツを活用し、徳島の魅力を学び、英語で発信できる児童・生徒の育成を目指しているところ。また、現在でも各市町村単位で地域の国際人材(ALT、バイリンガル、留学生、外国人、国際的な経験を有する人)を活用した取組みがなされている。 アクティブシニアの方々はもちろん、幅広くグローバルなバックグラウンドをお持ちの方々にその経験や知見を提供いただき、小・中・高校生のコミュニケーション能力の向上や異文化理解の精神を育てる取組みを各市町村に引き続き依頼して参りたい。	教育
13	7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	総合型地域スポーツクラブを、地域単位でのスポーツ活動の母体として、機能強化に取り組めば、スポーツの振興や、各競技種目の競技人口の拡大のみならず、徳島のスポーツ全体の成績を向上させる効果も期待できるのではないか。	「スポーツ指導者不足・資質向上」、「組織体制や財源基盤のせい弱」等の諸課題を抱えている総合型地域スポーツクラブが地域コミュニティの核となれるよう、基盤強化を行うとともに、「する」「観る」「支える」スポーツの多様な関わり方へのアプローチを推進して参りたい。	県民教育
14	7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	宿泊者数の増加に向け、とくしまマラソン終了後に色々なイベントを開催しているが、もう一工夫したイベントが充実すれば、「もう一泊」に繋がるのではないか。	マラソンを完走するためには、相当な体力を必要とするため、大会前日の宿泊ニーズが相当高く、宿泊施設を一定数確保し備えているものの、申込み開始後、数日で満室となっている状況にある。一方、大会当日の宿泊は、マラソンによる疲労、体力の消耗などから、大会終了後すぐに離県する傾向が強く、ニーズは少ない状況にある。このような状況であるものの、大会当日に後夜祭を開催し、徳島にできるだけ滞在してもらうことで宿泊につながる可能性を高めているところ。 今後、イベントの充実や旅行商品化など、他大会での先進事例を研究するなどし、更なる宿泊者数の増加に努めて参りたい。	商工